

ゴールをイメージする

新潟県の学校教育の重点及び当校の学習指導の目標に、「単元構想」を挙げています。これは、校長室だより第3号の「主体的な学び」につながる大切な取組です。少し説明します。

これまでの評価のイメージ

保護者の皆さま、学生時代を思い出してください。こんな経験はありませんか。

定期テスト前で、事前にテスト範囲が示されています。例えば、3年生英語で、「今回のテスト範囲は現在完了のすべての用法だ」と。ところが、様々な事情で、授業がカットになり、又はテストまでに範囲が終わらず、直前になって「じゃあ、テスト範囲のうち、現在完了の経験用法はカットしよう」とテスト範囲が短くなる。

テスト範囲が示されたときに、計画的な生徒はテスト範囲に応じて、「この日は現在完了の経験用法」「この日は継続用法」という風に学習を進めるはずですが。その生徒にとって範囲が変わることは大きなショックです。すでにカットされた範囲を学習していれば、目先のテストに向けては無駄な時間を過ごしたことになります。逆にここまで勉強していない生徒にはラッキーです。学習する量が少なくなるからです。

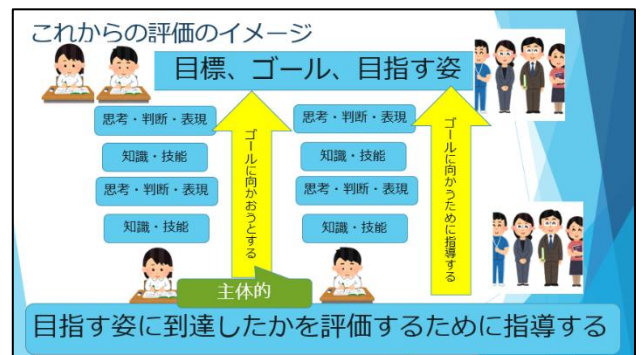
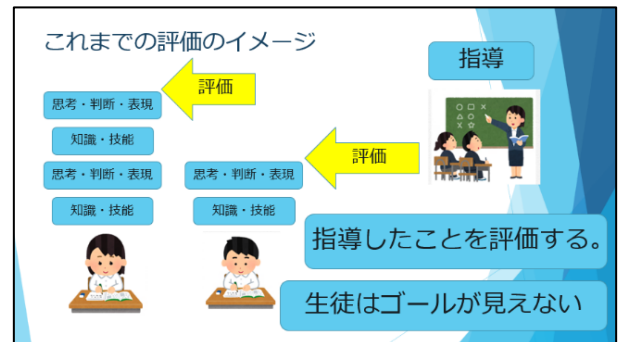
これまでのテストは各教科の「知識・技能」をきちんと身に付けることに重きが置かれ、教師が「授業で指導したことをどれだけ理解しているか」が評価の観点でした。そうすると、授業でやったことを繰り返して学習することが主体でした。

また、テスト問題も、「She has already read the book.の意味を答えなさい。」とか「You have just written the report.を疑問文にきなさい。」など、文法の問題が多かったのです。

私も英語教員としてこういった指導を多くしてきました。しかし、これでは学んだ「現在完了」を、どのような目的や場面、状況で使ったらいいかが身に付かなかったという反省がありました。実際に英語を使う力になっていないのではないのかという指摘です。

これから求められる英語の力は、目的・場面・状況に応じて、生徒自らが使う英語や文法を選び、表現できるようになる力を育てることです。例えば、「自分史を作ろう」という課題・ゴールが示されれば、生徒は自分の言いたいことを頭で整理し、それを表現するために、単語を選び、使う文法を組み合わせていくのです。「自分史だから、過去のこと、つまり経験や続けてきたことを表すときに、『現在完了が使える』とひらめくことが大切なのです。

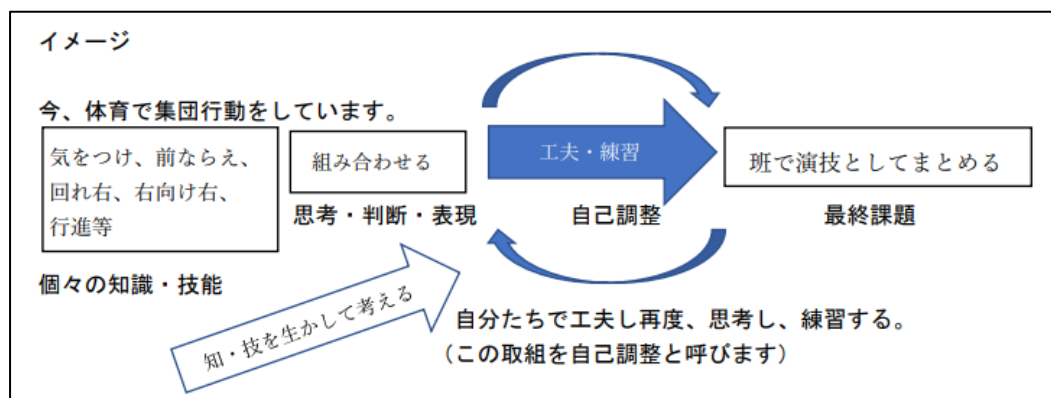
課題やゴールを明確にし、それを実現するために自分で考えること、それが、学習指導要領が求めている「主体的に学習に取り組む態度」であり「主体的な学び」なのです。身に付けた知識・技能をどう生かして、思考力・判断力・表現力をどう発揮していくかです。



これからの評価のイメージ

つまり、大切なことは、ゴールや目指す姿が、生徒、教師ともにより具体的でイメージしやすいもので、それに向かうためにどうしたらいいかを、教えてもらうだけでなく、自ら考えることが大切なのです。

例えば、今、保健体育では集団行動をしています。ゴールは「各グループが自分たちで工夫した演技をすること」です。そのために、行進や方向転換、列の増減などの知識・技能を、組み合わせ、アレンジして



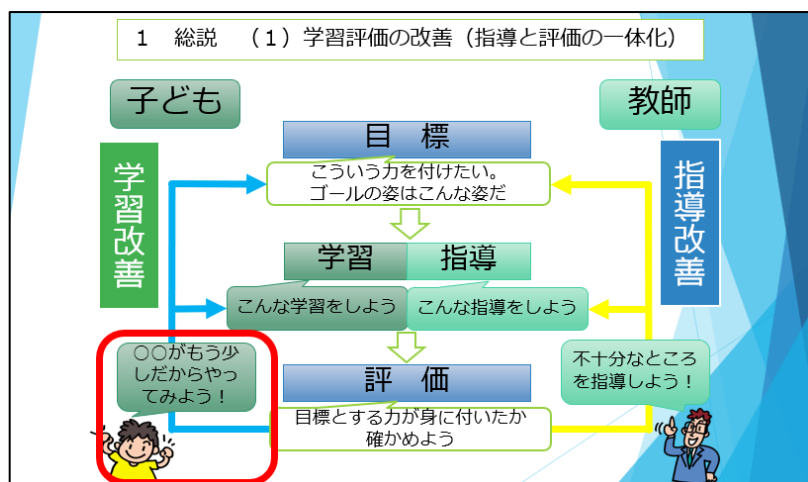
(思考・判断・表現) 作り上げていくのです。

当校では、一昨年から「ゴールを明確にした単元計画の作成」に取り組んでいます。ゴールは生活に密着し、生活の中で生かせる課題を設定することを目指します。ゴールに向かうためには、まずは、ベースとなる「基本的な知識・技能の習得」が欠かせません。その場面では繰り返しの学習であり、ドリルを徹底して行い、定着を目指します。

これまでは、身に付けた知識・技能を再度表現したり、書いたりするいわゆるアウトプットまでが学習ととらえられていました。

これからは、身に付けた知識技能をどう生かし、生徒が自ら考え、試行錯誤し、最善解を求めることと、友達や仲間と意見を出し合い、練り上げていくことが大切なのです。

これからの時代は予測不能だと言われています。また、多様化の時代であり、答えが必ずしも一つではないことがたくさんあります。ある課題が出された時に、一つの答えを求めるのではなく、その場で何が一番大切なのか、あるいはベターな解決方法は何かを、自分たちで考え出す力が求められています。そして、一度考えたことを見直し、更によりなるためには、あるいはゴールに向かうためには、何をどう改善し、やり方を見直す力が大切です。それが「メタ認知」です。学校でも家庭でも、この「メタ認知」をどう育成していくかが大切だと考えています。上の図の赤枠「〇〇がもう少しだからやってみよう。」この考え方がまさに「メタ認知」であり、今生徒に身に付けてほしい力です。



まずは目標を設定し、その目標に近づくためには、どう取り組んだらいいか、何をしたらいいかを生徒自ら考えることが大切です。また、取組をしていく中で、少し立ち止まり、これでいいのか、違う方法はないかを考えて修正していく力も必要だと考えます。

「メタ認知」をどう育成するかは今後お知らせします。